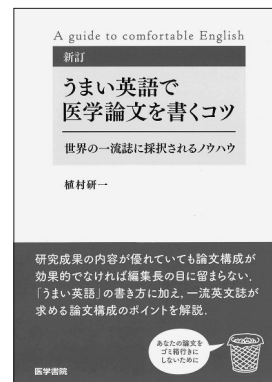


BOOK Review

新訂 うまい英語で 医学論文を書くコツ 世界の一流誌に採択されるノウハウ

評者 鈴木康之 岐阜大教授・医学教育開発研究センター



私が初めて本格的な英語論文を書いたのは1986年でした。当時、論文執筆に関するテキストはほとんど無く、他の論文の表現や構成を参考にしながら、四苦八苦して継ぎはぎの英作文をしていた記憶しかありません。本書で植村研一先生が強調しておられる“comfortable English”にはほど遠いものでした。当時、本書があったら私の苦労の何割かは軽減し、ワンランク上の雑誌に掲載できていたことでしょう。近年、論文執筆に関するテキストは随分多くなりましたが、本書は次の3点でとても魅力的です。

(1) 医学研究者・医学英語教育者・雑誌編集者・同時通訳者としての長年の経験に基づいて、“どのような論文が一流誌に採択されるか?”を熟知した植村先生が、まるで直接語りかけてくださるように、歯切れ良くポイントを示しています。植村先生のお話を一度でも聞いたことのある方は、特に実感されるでしょう。植村先生の頭に蓄積されてきた智慧とノウハウを学びとってほしいと思います。

(2) 全編を通じて“comfortable English”と“短縮率”がキーワードとなっています。日本人特有の婉曲・冗長な表現を戒め、言葉をいかにそぎ落とすかを多くの実例で示し、演習によって実践力が高まる工夫がされています。

英語論文の読者・査読者の多くはnative speakerであり、comfortableな英語を心がけることが重要です。“うまい英語”とは決して美文ではなく、読者の頭に素直に入っていく“simple and clear statement”なのだと理解しました。“うまい英語”のコツがわずか50ページの中に凝縮されているとは驚きです。

(3) コンパクトな構成で、忙しい医師・研究者でも手軽に読むことができます。読みやすく(comfortable Japanese!), 明快(simple and clear!)に書かれていますので、一度全編を通読することがお薦めです。これから英語論文にチャレンジしようとしている若手はもちろんのこと、論文の質をワンランク高めたい中堅、論文執筆を指導する立場のベテランにとっても格好の参考書です。一度でも英語論文を書いた方なら、読んでいてうなずかされることばかりです。査読者の視点を知ること、どんな論文を書けば良いかを知ることができます。

近年、わが国からの医学英語論文数は頭打ち、分野によっては減少し、世界第2位の座から第6位へ転落しています。研究力自体の強化はもちろん最重要ですが、せっかくの研究成果を効果的・効率的に発信するためには、研究者の英語論文執筆力を高めることが重要です。そのために本書は格好のテキストと言えるでしょう。

植村 研一 著

A5判/224頁/2019年/定価(本体3,200円+税)/ISBN978-4-260-03936-9/医学書院刊